

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 小林 祖承  
〒520-0113 大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

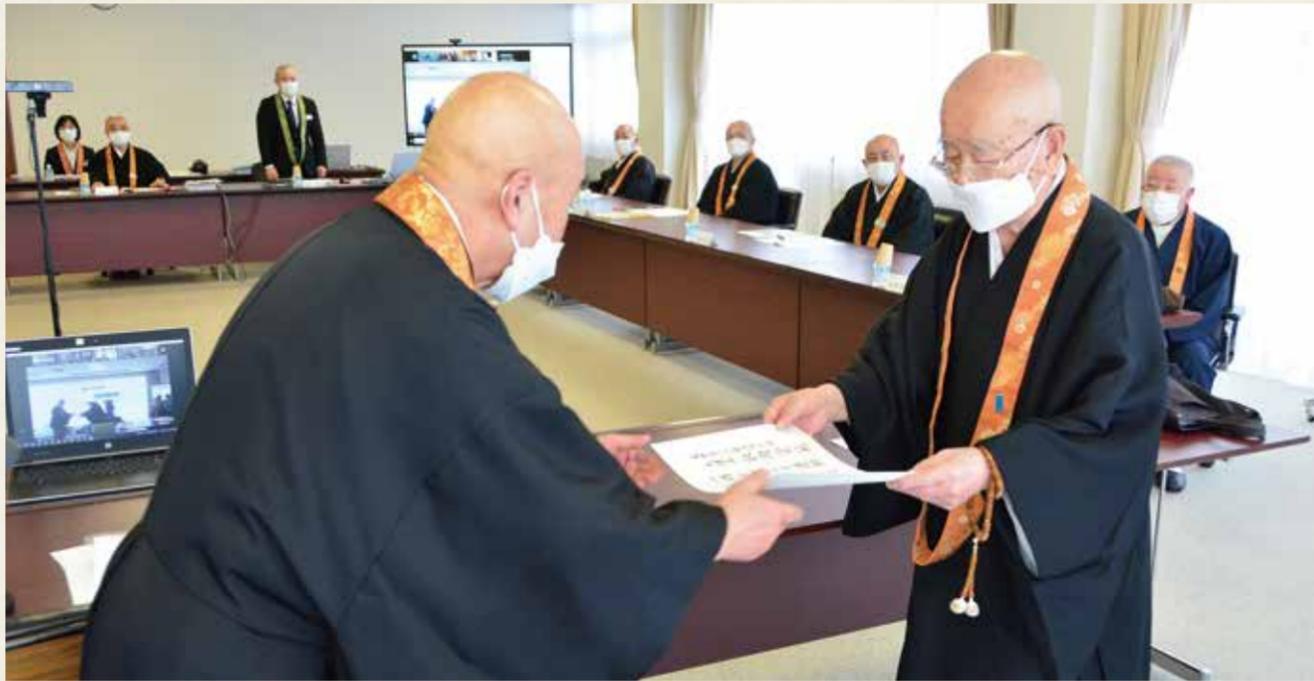
令和4(2022)年3月1日 火曜日  
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



## 新会長に叡南覺範探題大僧正

一隅を照らす運動理事会



一隅を照らす運動総本部(竹内純照総本部長は2月2日に開催した令和3年度第2回「一隅を照らす運動」理事会で、新会長に叡南覺範探題大僧正(延暦寺一山建立院住職)の就任を全会一致で決めた。昨年11月に大樹孝啓前会長が天台座主にご上任され、同運動総裁に就任されたことに伴う後任人事。叡南新会長は「みなさんのお力をいただいで勤めを果たしたい」と抱負を述べられた。

新会長は、次席探題である叡南大僧正を推薦することが阿部昌宏理事長から報告され、全会一致で選出された。また顧問には、新たに小堀光實三千院門跡門主の就任が決まった。

令和4年度の事業計画については、運動が掲げる「生命」「奉仕」「共生」の実践3つの柱を中心に、支部活動の活性化や教区本部・支部・総本部の連携強化と拡充、更に一般の人びとへの認知度が上がるような方策を講じることを基本方針としている。広報宣伝や研修会等の実施、支部活動推進の支援などを行うことが確認された。竹内総本部

### 行動こそ大きな力に

理事会の最後に、叡南新会長から、総本部が行う様々な支援についての経緯や願いなどが詳細に語られた。

タイのプラティープ財団には、就学支援や日本とタイの高校生らによる海外交流などが行われており、30年に亘って交流が続いている。当初を知る叡南会長は「設立者のプラティープさんの活動は、人材育成に心血を注がれた伝教大師の御心と同じだと共感し、比叡の大護摩の浄財から当時5百万円の寄付を決めた」と振り返った。そして、

長は、「従来行ってきた活動などをSDGsを切り口として活性化し、支部それぞれが取り組みやすいように、また檀信徒が参加しやすいように努めたい。写経会の開催なども含めた支部活動の活性化が重要なので、それらを支援していきたい。動画などを使って発信力を高めていきたい」などと説明を加え、理事らに理解を求めた。

タイを訪問し直接寄付金を手渡したことを回顧し、「現地に就いて行動を起こすことが大事」と教示。同様にインドのパンチャメツタ協会への支援の経緯も紹介し、「世界に目を向け、伝教大師の『忘己利他』『一隅を照らす』を心に留めて行動に移れば大きな力になる」と助言した。

また各地方で活動する住職や副住職らへの支援も重要との認識を示し「各個人で努力し実績ある人びとを表に出すことが必要」と述べ、運動の更なる展開へ期待を寄せた。

### 極微

新しい言葉がどんどん発生するのが現代日本である。雑誌記事などで、見たこともない語が、世の中に行き渡っているかの如く文章に使われていると、「やれやれまた調べるのか」と戸惑いよりも疲れを覚える▼「新語」は現れても、定着する語はごく少なく、使いこなすに至らずに消えていくのも多い。特に最近では、インターネット上で使われる「新語」が目につく。これもネット上で調べると一応出てくるが、意味が分からず首をかしげる語も少なくない▼昨年アメリカのメジャーリーグで大活躍した大谷翔平選手に関わる「リアル二刀流」とか「シヨータイム」とかは、毎日の如く登場したから、覚えてしまっただけ、当然の如く頭に入った。しかし、語の性質上、永年にわたって続く語ではないだろう。また、親を選んで生まれることができないという意味の「親ガチャ」やオンラインピックのスケートボードの解説で使われた「ゴン攻め」などは、やがては消えていくかも知れない。一方、「SDGs」などシリアな社会的背景を持った語は、容易にはなくならないと思うがどうだろう▼しかし、令和以前の流行語を目にすると、懐かしい気が起こる。時代の世相というものが、鮮やかに甦ってくるのだ。そう考えると、もはや廃れてしまった流行語というものも、時代を知るといふ意味で貴重な「語」である。

### 叡南覺範探題大僧正

昭和元年生まれ。96歳。延暦寺副執行、執行、叡山学院院長、叡山文庫長、宗議会議員などの役職を多数歴任。平成8年に戸津説法勤仕、同10年に望嶽講。同26年に探題補任。大樹孝啓座主現下のご上任により、令和3年11月より次席探題。平成18年から令和2年まで、京都五箇室門跡の一つ、山科区の毘沙門堂門跡門主をお勤めになられた。